



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—良好な雇用統計を受けた利上げ早期化観測などで下落—

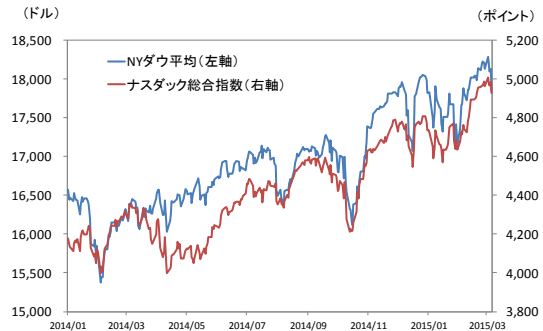
	前週終値	3月2日	3月3日	3月4日	3月5日	3月6日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	18,132.70	18,288.63	18,203.37	18,096.90	18,135.72	17,856.78	-275.92	-1.52%
騰落幅		+155.93	-85.26	-106.47	+38.82	-278.94		
S&P500	2,104.50	2,117.39	2,107.78	2,098.53	2,101.04	2,071.26	-33.24	-1.58%
騰落幅		+12.89	-9.61	-9.25	+2.51	-29.78		
ナスダック総合指数	4,963.53	5,008.10	4,979.90	4,967.14	4,982.81	4,927.37	-36.16	-0.73%
騰落幅		+44.57	-28.20	-12.76	+15.67	-55.44		

<先週の概況>

先週の米国株式市場は下落しました。ダウ平均やS&P500は2週連続での下落となり、ダウ平均は1万8000ドルの節目を割り込みました。

発表されたISM景況感指数が製造業・非製造業ともに絶好調とは言えない内容で上値が重かったことに加え、週末に発表された雇用統計が市場予想を大きく上回る良好な内容だったことから利上げの早期化観測が高まったことで株価は大きく下落しました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



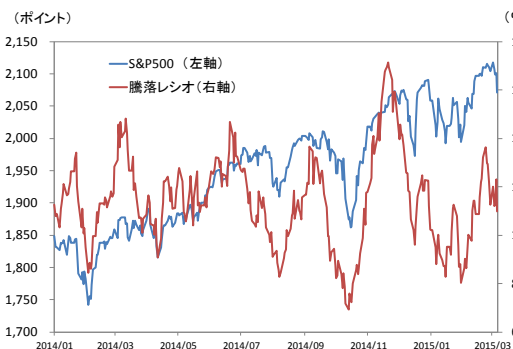
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	16.6	3.2	2.4%
S&P500	17.5	2.9	2.1%
ナスダック総合指数	21.3	3.6	1.1%

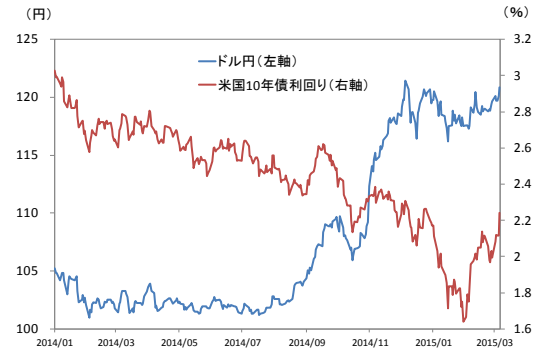
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2015年3月6日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

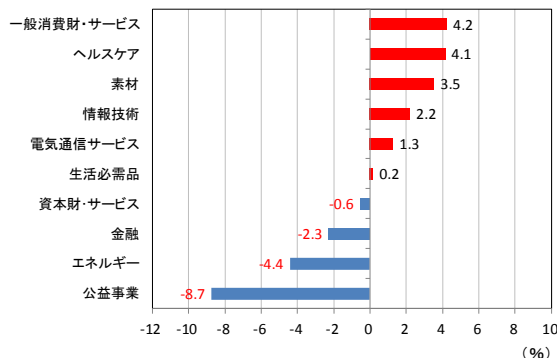
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

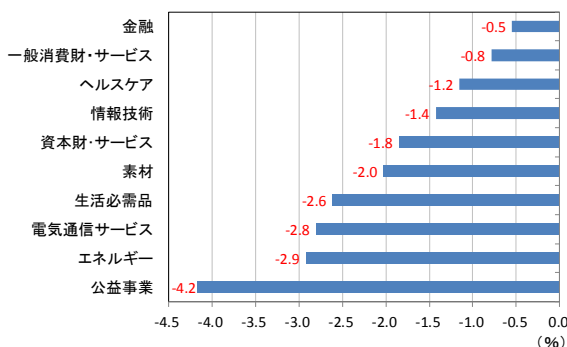
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング(3/2-3/6)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
BA	ボーイング	1.5
DD	イー・アイ・デュポン・ドゥ・ヌムール	0.4

(出所) マネックス証券作成

値下がり率ランキング(3/2-3/6)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
KO	ザ コカ・コーラカンパニー	-4.1
CAT	キャタピラー	-3.4
MSFT	マイクロソフト	-3.4
XOM	エクソンモービル	-3.3
T	AT&T	-3.1
CVX	シェブロン	-2.9
MRK	メルク	-2.9
PG	プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー	-2.9
MMM	3M	-2.5
VZ	ベライゾン・コミュニケーションズ	-2.3

(出所) マネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中上昇はボーイング (BA) とデュポン (DD) の2銘柄にとどまりました。

<下落>

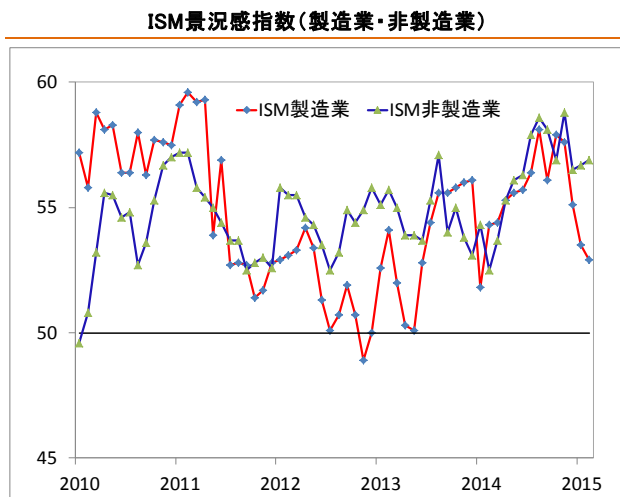
設備投資を減らす計画が明らかとなって今後の収益鈍化が懸念されたエクソン・モービル (XOM) が下落し、シェブロン (CVX) も連れ安となりました。また、ダウ平均採用銘柄の入替えが発表され、アップル (AAPL) と入れ替わりで指数の構成銘柄から外れることとなったAT&T (T) も3%を超える値下がりとなっています。

先週発表された主な経済指標

3月2日 ISM 製造業景況感指数 2月 52.9 市場予想 53.0 前月 53.5
 3月4日 ISM 非製造業景況感指数 2月 56.9 市場予想 56.5 前月 56.7

2日に発表されたISM 製造業景況感指数は52.9と市場予想(53.0)を小幅に下回り、4ヵ月連続で前月から悪化しました。指数の詳細を見ると「新規受注」と「生産」が悪化しており内容も良いとは言えません。

また、4日に発表された非製造業の景況感指数は56.9と前月(56.7)から改善し、市場予想も上回りました。ヘッドラインは堅調ですが指数の詳細を見ると「新規受注」や「業況」は悪化しており、こちらも絶好調とは言えない内容でした。



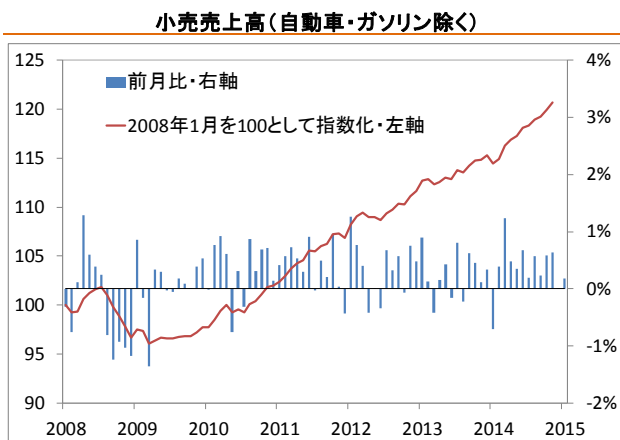
(出所)マネックス証券作成

今後発表される主な経済指標

3月12日 2月 小売売上高(自動車ガソリン除く前月比) 市場予想 +0.3% 前月 +0.2%

12日に2月の全米小売売上高が発表されます。変動の大きい自動車やガソリンを除く売上高は12月が横ばい、1月は+0.2%とやや足元で伸びが鈍化しています。

昨年末以来原油が大きく下落し、そのことが個人消費を底上げするとの見方が強まっている米国経済ですが、足元までその効果ははっきりとは出ておらず、2月の内容に引き続き注目が集まります。



(出所)マネックス証券作成

マーケットビュー—ダウ平均は 100 日移動平均にサポートされるか注目—

先週のマーケットビューでは、企業景況感や住宅市場など冴えない経済指標を根拠として、上値の重い局面が継続するのではないかと記しましたが、結果的にダウ平均や S&P500 は 2 週連続での下落となりました。雇用統計の結果が良好で利上げの早期化観測が高まったことが 6 日の大幅下落の要因として取り上げられていますが、それ以前から前述した冴えない経済指標の結果が上値を重たくさせていたと考えています。

今後は今週発表される小売売上高など経済指標を睨みながらの展開となりますが、まずはダウ平均の 100 日移動平均線がある 1 万 7500 ドル付近までの調整の可能性があると見ており、そのあたりの水準がサポートとなるか注目しています。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 165 号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
 一般社団法人 日本投資顧問業協会